

モデル事業名	市民参加の古代官道（西海道）調査・活用事業（西海道ルネッサンス）
活動団体名	NPO 法人鴻臚館・福岡城跡歴史・観光市民の会〔代表団体〕 NPO 法人歩かんね太宰府
ホームページ	http://fukuoka.jokorokan.nngo.jp
所属／ 担当者名	代表 石井幸孝 事務局長 岡部定一郎
連絡先	092-716-8238
活動地域	福岡県・福岡市・太宰府市・筑紫野市・春日市・大野城市他

### ● 活動地域の概要

西海道の基点である太宰府を中心にした半径10～15キロの古代官道ルート上の地域。北西部は福岡市の大都市部であり、東南部は平野部と丘陵部である。大都市部は経済活動優先で地域市民の連帯感やコミュニティがない。平野部は福岡都市圏のベッドタウンで、地域への愛着がない。丘陵部は人口減少地で地域の話題性が乏しく活気がない。古代官道はこれらの地域をつなぐ歴史文化遺産である。

### ● 活動地域の課題

該当地域は大都市部、平野部、丘陵部からなっており

- ① 空疎になった大都市部のコミュニティづくりには、大人から子供まで、関心の持てる新しい話題が必要である。
- ② 平野部は隠れた地域歴史遺産があるにも関わらず、平凡なベッドタウン化している。
- ③ 丘陵部は人口減少地域で、さしたる話題もなかったが、実は古代官道の重要な「駅路」「駅家」があったところである。

### ● 活動の内容

(全体)

平成20年度には、関心を誘うイベントを繰り返しながら、プロジェクトを進めてきた結果、予想以上の市民の参加と反響で、素朴ながらも、趣旨にそった成果と今後の取り組み課題を捕らえることが出来た。まったく新しい取り組みであり、時間の制約もあったが、このテーマの持つ潜在的な魅力と将来性を感じた。

平成21年度は、前年度好評であった手法を踏襲しながら、さらに地域住民とのコミュニティづくりや、若い世代、学校等とのコラボレーションに広がりを持たせた。具体的には、定着しつつある、「市民フォーラム」「フィールドワーク」「市民シンポジウム」の組み合わせには、内容に関心を誘うような工夫をして行った。さらに「ワークショップ」として古代官道のルート、駅家（うまや）の所在地を2箇所（「長丘駅」、「城（き）の山道」）選び、そこに住み続けている地元住民とのグループ対話方式での地域伝承的調査・意見交換を行った。また易しい古代官道読本として「1300年前の高速道路」を作成の上、太宰府市の太宰府西・学園院両中学校の生徒（総数約800名）と古代官道「スクールフォーラム」を開催した。

（「21年度活動紹介リーフレット」、「21年度成果報告書」、「古代官道読本」参照）



古代官道 市民フォーラム



古代官道 フィールドワーク



古代官道 スクールフォーラム  
太宰府西中学校

### (直近1年間の進捗など)

本事業は平成20年度にモデル事業として、新たにスタートした、まさに「新たな公」の典型的な事業であるので、創生支援事業がストップすれば、中断する運命のものである。その点以前から行っていた事業への国の補助とは異なる。この1年間は2ヶ年間のアフターケアと求めに応じて講演などを受けた。「道守九州会議」（11月開催）で基調講演を行い、九州全域で取り組むことを提唱した。またお世話になったり要望のあった関係箇所にて要請を受けられない事情、たとえば中学校からの「スクールフォーラム」の要請など、の釈明と今後につながるコミュニケーションを行った。

## ● 活動の成果

1) 壮大な歴史・文化遺産でありながら、従来専門分野の関心事に過ぎなかった古代官道が、市民にも認識される端緒を開くことができた。 2) 従来「官」にのみ依存していた公的文化遺産の、市民参加による調査・活用事業の先鞭を開くこととなった。 3) 専門家による地道な調査努力の成果が、広く一般市民の前で公開される場を提供した。 4) 市民らしい、一般から親しみのある見方や取り組み、活用の提案がえられた。「古代官道を作ってみよう」「古代官道を描いてみよう」など「民」ならではある。 5) 整備・活用の視点での意見は今後自治体、関係機関等により取り上げてもらい実施されることが期待される。その際も市民団体等のボランティア協力方式も可能性がある。今後の課題である。 6) 多くの民間団体・グループの市民が分野・市域を超えて参加するフィールドワークはそれ自体が興味あるイベントとなり、今後に普及する期待がある。 7) 市の協力を得て行なった「市民フォーラム」ならびに「市民シンポジウム」は、都合3回に及び、「古代官道」という「古くて新しいテーマ」が浸透する端緒となった。また「新たな公」という新しい概念の市民理解の一助にもなった。 8) 歴史教材「古代官道読本」を制作することができて、学校副読本、子供向け解説書、さらには大人、先生にも分かり易い解説書として評価された。 9) 古代遺跡の豊富な太宰府市立2中学校とのコラボレーションができた。 10) 「ワークショップ」などを通して、古代官道の新しい調査手法として「地域伝承的調査」を手がけることができた。まだこれからであるが、コミュニティづくりにもプラスである。 11) 「市民参加による古代官道調査・活用事業」のモデルを確立し、将来的には、各地域で展開することが期待される。元来「道」であるから、行政界をも越えた連携につながり、道州制など広域行政時代のテーマとしても興味ある。周辺からも関心を持たれていることを感じている。



九州は大宰府を中心に古代官道のメッカ



子ども読める「古代官道読本」作成

## ● 今後の課題及び展望

「新たな公」の概念は平成20年7月閣議決定の「国土形成計画」で打ち出されたもので、公的業務の「民」による取りくみ、乃至、「民」「官」協働による取りくみは、時宜を得たものであると思う。今回の取りくみは地域の活性化・コミュニティづくりに大きなインパクトを持つが、同時に「古代官道の調査・活用」という「公的業務」に新手法を提案しているのであって、これは一地域の問題ではない(古代官道最高権威者の木下良氏からは、この手法への期待が寄せられている。参考資料参照)。このように、今後幅広い公的業務に広がりを持つ可能性があり、国の施策として育てる必要がある。また、まだ地方にその新しい概念が浸透していないので、現状では地方で「新たな公」「市民参加の古代官道調査・活用」の発想での支援や予算づけは期待しがたい。折角の政府方針のこの概念を消滅させないために、今しばらく中央で、本省マターでの「新たな公」または「新しい公共」事務の推進、予算措置を是非行っていただきたい。このような画期的なまったく新しい事業では一旦中断してしまうと、実行組織や体制が消滅するので、次回立ち上げの折には、再度基礎検討、準備を要する。中断するには勿体ないテーマであり、早い時期に再開できるよう国においても考えていただきたい。予算が減額になるのであれば、厳選して地方活動団体への配布件数を減らしてでも対応すべきと考える。

## ● その他(自由記述)

私どもの取りくみは、一地方の活性化という地方問題に止まらず、全国に波及する新手法への取りくみであり、また学問としても日浅い「古代官道」の調査、さらにはその活用というテーマへの新しい発想での取りくみでもある。2ヶ年間で、「民」が取り組む新手法の実験的試行錯誤が見えてきた段階である。また「学校」とのコラボレーションという大変有望な試みがスタートしたばかりで、3年度目に大きく花開くところまで、やっきたところである。生徒、学校、市民の期待も大きい。さらにワークショップという地域住民だからできる「古代官道の地域伝承的調査」は、「考古学的」、「歴史地理学的」手法に次ぐ「第三の手法」として、取りくみを始めたばかりである。昨年暮れ事業仕分けで、「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業が議論されたとうが、今の段階では「新たな公」による本省の支援なくしては、これらの努力は水泡に帰する。地方に支援を期待するには、あまりにも、まだ「新たな公」が浸透していない。政府に置かれてはこの点を強くご理解をいただき、近い将来に「新しい公」または「新たな公共」による手法の地方育成の道を再開していただきたい。新時代にふさわしい、手法であると確信する。